

## 『都市の経済学 小テスト No.4』

学籍番号：

氏名：

【各問の選択肢の中から、正しいものに丸印をつけよ。】(1点×16個=16点)

- 問1. 土地市場の分析を行う前に複数の仮定を置いているのは、仮定を置くことによって、属性の(異なる、同じ)土地を(異質に、同質に)することが可能になるからである。これによって、土地をこれまでのミクロ経済学で学んだような一つの市場に表すことが出来る。
- 問2. 地主は自分の所有している土地を、一番(高く、安く)借りてくれる人に貸したい。
- 問3. 家計は効用水準を(最大化、最小化)できるように、予算制約を考慮しつつ、可能な限り(高い、安い)地代を提示する。
- 問4. 上記のように、家計が提示する地代を(市場地代、付け値地代、市場価格)と呼ぶ。
- 問5. 予算制約線の傾きは、(合成財価格、地代、消費する財の組、可処分所得)を表す。
- 問6. 交通費がかかるとき、予算制約線の縦軸の切片は、(所得の総額、可処分所得の総額)を表す。
- 問7. 一ヶ月当たりの交通費が3万円と5万円の場所において、それぞれの地代が同じならば、土地市場の均衡では、両者の効用水準は(3万円の場所が高くなる、5万円の場所が高くなる、同じになる)。
- 問8. 問7.の交通費が3万円の場所での効用の変化について考えてみよう。地代が同じならば、交通費の安い3万円の場所に人が集まる。すると、その場所に対する(供給、需要)が高まるため、均衡地代が(上昇、下落)する。この結果、個人の予算制約線は(左、右)にシフトし、それに接する無差別曲線も(左、右)にシフトすることから、この地点に居住することで得られる効用水準が(高くなる、低くなる)。
- 問9. 土地市場が均衡している状態では、CBDから距離が離れるに従って付け値地代が(低くなる、高くなる)。また、CBDから距離が離れるにしたがって土地サービスの最適な消費量が(小さくなる、大きくなる)。